

吸引法調査方法

吸引法調査は、ハンディ掃除機を使って、アリを採集する調査方法。調査員が調査ルートを歩き、地面や樹上を歩くアリを全て採集する。アリの餌の選好性や種間の競争力に関わらず、アリ類全般を採集できるのが利点。歩きながら採集するため、短時間で広範囲を調査することができる。



1. 調査計画例

- 1.1 調査時期: 調査は働きアリの活動が活発な秋(10～11月)に設定するのが良い。
- 1.2 調査エリア: 港湾や空港、倉庫の周辺の道路を調査ルートとして設定する。
- 1.3 調査ルート: 約 500m を 1区切りとして、それぞれの区切りに番号を割り振る。

2. 準備する

- 2.1 調査ルートを設定し、調査ルート地図を作るもしくは、GoogleMap 等にルートを登録しておく。
- 2.2 必要な数の回収ラベル、採集用プラスチックバッグを準備しておく。掃除機は充電が途中で切れることもあるので予備を持参する。その他持ち物を準備。

3. 採集

- 3.1 調査ルート1区切り(約 500m)を 30 分のスピードで歩きながら、地面にいるアリ類をハンディ掃除機で吸う。
アリがいそうな場所を中心に採集する。倉庫周辺は車の出入りが多いため、2 名で実施するのが望ましい

(1名が採集、もう1名がルート指示と安全確認)。GPS を携行し、ルートの軌跡を残しておく。

3.2 30 分間の採集が終わったら、アリを殺虫し※、採集バッグに入れる。

3.3 採集したアリ類は研究室に持ち帰り、顕微鏡下で種の同定を行う。

※掃除機のフィルター部分にあらかじめワンプッシュ殺虫剤を噴霧しておいてからアリを吸うと、その場でアリを殺虫できる。

4. アリを確認する

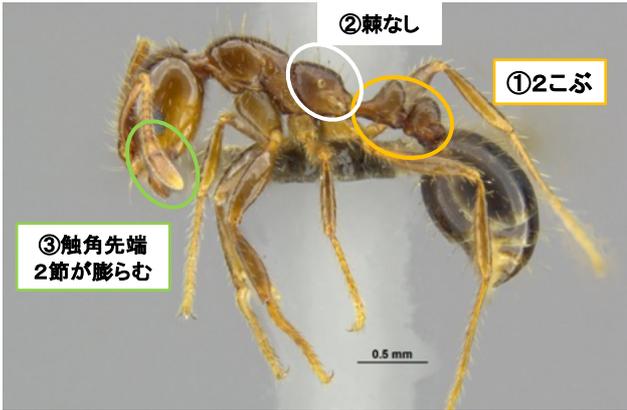
4.1 ゴミとアリ類をわける

4.2 アリを種ごとに顕微鏡等で確認する。

→ここでもしヒアリ類と疑わしいアリが確認された場合は、「沖縄県ヒアリ対策総合マニュアル(Ver. 2.0)」の P9 の通報先に通報の上 P11 へ。通報の際は確認された場所も伝える。

ヒアリの見分け方

以下の3つの形質に該当すれば、
ヒアリである可能性が高い



体長
2.5~6 mm

実寸大



※様々なサイズの
働きアリが混じる

5. 調査に必要なもの

【野外調査】

- ハンディ掃除機
- ティッシュ(掃除機のフィルターとして)
- 回収袋(ジップロックなど)
- 回収ラベル
- 調査ルート地図(もしくはスマートフォンで登録した GoogleMap を表示)
- 時計(もしくはスマートフォンでインターバルアプリを使用)
- GPS 測定器(もしくはスマートフォンの GPS アプリ使用)
- ワンプッシュ殺虫剤(回収したアリを殺虫する)

【アリの仕分けと確認】

- 顕微鏡(実体顕微鏡が良い)
- ピンセット